

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520214

研究課題名（和文） 中国における日本漢詩の受容

研究課題名（英文） The Japanese Chinese-written Poetry in China

研究代表者

蔡 毅 (CAI Yi)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：50263504

研究成果の概要（和文）：

本研究は日中文化交流の「逆輸入」という特別な視点から、従来ほとんど顧みられることがなかった日本漢詩の中国本土へのフィードバックの状況を全面的に検討した。唐代から清末までの中国の典籍に著録されている多くの日本漢詩作品を確認し、その時代背景と作者の経歴、作品成立の経緯および中国での反響等を考察することによって、日本文化の世界に対する発信の歴史ないし東アジア漢字文化圏における文学往還の事象を、新たな角度から照らし出すことができ、日中文化交流史研究の新しい一ページが開かれたと言えよう。

研究成果の概要（英文）：

From a viewpoint of “reverse import” of Japan-Sino cultural exchange, this paper studies the cases of Japanese Han-poems reverting to China, which, in the past, had been largely ignored. Based on a large number of Japanese Han-poems found in the classic literatures ranging from Tang to Qing Dynasties, this paper analyzes the historical background, the experiences of the authors, how the poems were written, as well as the impact to China. Through this study, we may find a new angle of viewing the history of how Japanese culture had influenced the world and, in particular, how cultural exchange took place in the Han-literature countries in East Asia.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：日本文学・漢文学

キーワード：日本漢詩・逆輸入・中国本土・日中文化交流・東アジア漢字文化圏

1. 研究開始当初の背景

日中文化交流史の研究において、近年一つ

の新しい動向がみられる。日本文化の中国へのいわゆる「逆輸入」に対する関心である。

明治維新まで二千年にもわたる日中間の文化交流では、中国が一方的に日本に影響を与えたことは周知の通りだが、逆にその間に日本文化がある程度中国に伝わっていったことも事実である。1990年代に日中の学者が共同編纂し、両国で同時に出版された『日中文化交流史叢書』（大修館書店と浙江人民出版社、全10巻、1996年）は両国の長い文化交流を全体として把握することに努めた大規模なシリーズであり、このテーマに関する研究はこの十数年間着実に進んでいるのである。

しかし、こうした研究では、日本文化の重要な構成要素であった日本漢詩の中国への流伝については、ほとんど取り扱われていない。研究代表者が上記の「叢書」第9巻『典籍』に執筆した「愈 樾と日中漢籍の交流」は、中国人が編纂した最大規模の日本漢詩アンソロジー『東瀛詩選』について全面的な検討をおこなった初めての研究である。それをきっかけにして、研究代表者は「中国における日本漢詩の受容」というテーマに取り組み、すでに『東瀛詩選』のほかに、陳曼寿『日本同人詩選』等の日本漢詩の中国への流布に関して一定の研究成果をあげたものの、全面的な究明にはまだ時間や費用がかかる。それが本課題を申請した所以である。

2. 研究の目的

本研究によって、日中文化交流史において従来ほとんど顧みられることがなかった新しい一ページが開かれ、研究の空白を埋めるに違いなく、東アジア漢字文化圏全体に対する視座を大きく変えることもできるのではないかと考える。漢詩という純粋な中国文学のジャンルにさえ相互交流の事実があったことは、日本文化の世界に対する発信の歴史

を新たな角度から照らし出すことになるのである。一方、中国文学のほうも、これまで安易に考えられていたような閉鎖的、自足的なものではなく、開放性・包容性を孕んでいた様相が明らかになり、さらに広い視野で再検討すべきものであると考えられる。

3. 研究の方法

(1) 文献資料の精査：

本研究は基本的には実証的な手法で行われた。日本漢詩の中国への流伝はこれまでの研究のなかでいくらか明らかにしてきたが、テーマを立てその目的に向かって網羅的に精査していく中で、さらに多くの資料が出現することも予想されたため、範囲を拡大し、一層綿密な調査を行った。日中両国の膨大な文献を扱うことは容易な作業ではないが、近年の検索性ソフトを活用することによって、可能な限りの関係資料を得るべく努力した。

(2) 現地調査：

歴史上、中国に足を踏み入れた日本漢詩人の作品は書物に見えるもの以外にも、題辞や石碑などのかたちで保存されているものもある。杭州の西湖などの名勝地に、かつていわゆる禹域を周遊した日本漢詩人の痕跡が残っているため、現地に赴いて調査し、文献資料の欠を補った。

(3) 海外研究者との協力：

最近、東アジア研究には新たな大きな動きがみられる。従来、中国、日本、あるいは交流としてもせいぜい日中比較といった限定的・個別的に行われてきた研究が、東アジア全体を視野に入れることによって個々に見ていたのではわからなかった事象が見えてきたのである。そうした動向の先頭を走っている

のが南京大学の張伯偉教授、上海師範大学の曹旭教授をはじめとする中国大陸・台湾・香港の学者たちであり、研究代表者は常々こうしたためざましく活躍している日中文化交流史の研究者と交流し、緊密に連携しており、本研究においても彼らから情報と資料提供を受けている。

(4) 学会における研究成果公表：

段階的な成果を得た場合、積極的に国内および国際学会で発表し、それによってこのテーマについての関心を広め、且つ関係分野の学者から教示を得た。

4. 研究成果

上記の研究方法によって唐代から清代末期までの典籍に散在する日本漢詩作品を二百首以上集めた。それらを時代順に検討した結果、中国における日本漢詩の受容状況はほぼ確認できた。以下が各時代の概要である。

唐代：空海をはじめとする遣唐使たちの在唐詩作。

宋代：寂照をはじめとする入宋僧たちの在宋詩作。

元代：日元交流の資料が乏しいため、発見は少なかった。

明代：倭寇問題によって日本への関心が高まったため、日本漢詩についての文献記録も豊富で、多数の作品が見つかった。

清代：特に明治期にあたる清末は、日中の文人が直接に交流できた時期である。そのためいくつもの日本漢詩集は中国人によって編纂され、日本漢詩の中国への流布はピークに達した。

これらの作品をめぐって、時代の背景、作者の入華経歴、作品成立の経緯等の歴史事実を究明した上で、日中文化交流史ないし東アジア漢字文化圏において各作品の歴史的な位置付けを綿

密に分析し、その様相を解明した。結論として、歴史上の日本漢詩人たちは中国古典詩の影響を受けただけでなく、積極的に中国へ発信しようという姿勢が見受けられ、且つ中国の文人から一定の評価をも得て、自主的に活動していた存在であったことが判明できた。

今後の展望として、上記の成果を踏まえ、さらに日本漢文へ視野を広げ、より広範囲に日本漢文学の中国における受容を検討しようと考えたため、2012～2014年度の科研費基盤研究(C)に「中国における日本漢文の受容」をテーマとして申請し、採択された(課題番号：24520243)。日本漢詩に加え日本漢文が中国に伝わった様相も究明した上で、一連の研究成果を整理し、『中国における日本漢文学の受容』という著書にまとめる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

①蔡毅、「日本漢詩在中国」、『華東師範大学学报』、華東師範大学(上海)、査読有、第43巻4号、2011、pp. 1-11

②蔡毅、「嚴從簡『殊域周咨録』所収日本漢詩考」、『漢学與東亜文化国際学術研討会論文集』、香港珠海学院(香港)、査読有、2011、pp. 81-86

③蔡毅、「『漂流人帰帆送別之詩』考論」、『域外漢籍研究集刊』、中華書局(北京)、査読有、第6輯、2010、pp. 256-270

④蔡毅、「黄遵憲の『詩界革命』と明治『文明開化新詩』」、『アジア文化交流研究』、関西大学(大阪)、査読有、第5号、2010、pp. 157-165

⑤蔡毅、「葉燁与日本漢詩」、『風起雲揚——首届南京大学域外漢籍研究国際学術研討会論文集』、中華書局(北京)、査読有、2009、pp. 770-778

⑥蔡毅、「李長栄『海東唱酬集』考」、『台湾

古典文学研究集刊』、成功大学（台南）、創刊号、査読有、2009、pp. 393-408

⑦蔡毅、「潘飛声『在山泉詩話』所収日本漢詩考」、『域外漢籍研究集刊』、中華書局（北京）、査読有、第5輯、2009、pp. 469-489

⑧蔡毅、「近世日本のアジアへの発信——漢文学を通して」、『南山大学アジア・太平洋研究センター報』、南山大学（名古屋）、査読無、第4号、2009、pp. 32-40

〔学会発表〕（計9件）

①蔡毅、「宋人所見日本漢詩考」、中国韻文学会第5回国際學術研討会、2011年11月19日、海南大学（中国海口市）

②蔡毅、「明代典籍所収日本漢詩考」、中国古代文学理論学会第17回學術年会、2011年8月13日、吉林大学（中国長春市）

③蔡毅、「略論日本漢詩在中国的傳播」、「中国文学の傳播と受容」国際學術研討会、2010年8月22日、湖南科技大学（中国湘潭市）

④蔡毅、「嚴從簡『殊域周咨録』所収日本漢詩考」、「漢学与東亜文化」国際學術研討会、2010年3月29日、香港珠海学院（香港）

⑤蔡毅、「遺を補い佚を輯め、隠るるを索め沈むを鉤る——日中漢籍交流における『相互補完』の意義」、九州大学主催「東アジア漢籍交流シンポジウム in 京都」、2009年11月14日、同志社大学（京都）

⑥蔡毅、「日本漢籍と『全宋文』補遺」、宋代文学学会第6回国際學術研討会、2009年10月23日、四川大学（中国成都市）

⑦蔡毅、「幕末明治期における日中漢詩交流」、第6回日本漢学国際學術研討会、2009年10月3日、関西大学（大阪）

⑧蔡毅、「漂流民の漢詩外交」、「四海斯文自一家：東亜使節文化書写」国際學術研討会、2009年9月10日、台湾中央研究院（台湾台北市）

北市）

⑨蔡毅、「草根の間の『華夷之辨』」、東方詩話学会第6回国際學術發表大会、2009年8月15日、延辺大学（中国延吉市）

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
蔡毅 (CAI Yi)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：50263504

(2) 研究分担者
無し

(3) 連携研究者
無し